

薬の種類

主な外用剤

薬の形の種類

直腸に適用する製剤	坐剤、直腸用半固形剤、注腸剤
膣に適用する製剤	膣錠、膣用坐剤
皮膚などに適用する製剤	外用固形剤（外用散剤が含まれる）、 外用液剤（リニメント剤、ローション剤が含まれる）、 スプレー剤（外用エアゾール剤、ポンプスプレー剤がある）、 軟膏剤、クリーム剤、ゲル剤、 貼付剤（テープ剤、パップ剤がある）

坐薬

特徴

肛門に入れて使う 外用剤のこと

長所

薬を飲み込むのが、難しい子供に適す

飲む薬に比べて早く効く

短所

入れた時の刺激で、便意が表れる事がある

入れた後にお通じが出ると薬も一緒に出てしまう事がある

下痢している状態では使いにくい



軟膏

特徴

有効成分を軟膏の元(基剤)に混ぜる事で、
皮膚にぬる半固形の薬

長所

皮膚刺激が少なく、保護作用が強い

短所

ベタつきがあり、夏は汗の貯留を起こし不快感がある



クリーム剤

特徴

軟膏と比べて、水が含まれ乳化した半固形の薬

長所

使用感が良く目立たない

水ですぐ洗い流せる

ベタつきにくい

短所

時に刺激感がある



テープ剤

特徴

薬と粘着剤を混ぜ合わせたものをフィルムなどに薄く伸ばしたテープ状の薬

長所

パップ剤と比べて、粘着度が高く、貼った時の違和感も少ない
柔軟性が高く、肘や膝などよく動く部分にも使用できる。

保温性に優れている。

短所

パップ剤(通常のシップ薬)と比べて剥がす時にはがれにくい



参考引用文献

- ・製薬業界転職支援Answers:製薬業界用語辞典 <https://answers.ten-navi.com/dictionary/>
- ・直伝小児の薬の選び方・使い方 第5版